

# Noto+ PLUS

「行政」「人」「地域の魅力・価値」を「プラス」でつなく情報誌



広報のと 第89号

平成24年7月1日発行

■発行・能登町 ■編集・広報情報推進課  
〒927-0492 石川県鳳珠郡能登町宇出津新1字197番地1

☎0768-62-11000(他)  
能登町URL: <http://www.town.noto.lg.jp>  
Eメール: [info@town.noto.lg.jp](mailto:info@town.noto.lg.jp)

広報のと No.89  
2012.7.1

7

## 世界で一枚の卒業証書を原料のコウゾから

柳田中学校と小木中学校の3年生42人が6月8日、久田地区の休耕地に「久田和紙」の原料となるコウゾを植えました。生徒たちは今後、皮むきや紙すきを体験して、自分たちの卒業証書を作ります。世界農業遺産認定1周年を記念して実施されました。



ぶらり山  
ゆらり海

『ヨバレ』というおもてなし

## 世

世界農業遺産認定の立役者の一人あん・まくどなるどさんが「ため池が寛大な祭りを生んだ」という興味深いお話をしてくれました。ため池とお祭りがどう結びつくのでしょうか。

『能登は半島ゆえに川が短く、米を作るにはため池による農業用水の確保が必要不可欠でした。中世に荘園開発されてから明治まで千三百年にわたり、ため池灌漑が能登の人口を支えました。

山水や川を導きため池をつくり、水路を通して集落は生まれました。能登は山から海まであつという間の短い川ばかりなので、一本の川に「集落の「ため池中心コミュニティ」が普通でした。川の源流から河口までが集落内に収まるため、最も重要な水利問題は集落内で解決されました。別々の川なら、隣村と水のことでもめることもありません。長らく能登は平和でした。

半島が緩やかな地形だったおかげで、目の前の海から山の奥まで分け入って、目いっぱい恵みを得ながら半農半漁で暮らしました。半島が引き寄せた船や客人を迎え、遠来の文化を歓迎し、海の彼方から来た神を敬いました。こうして能登は「やわらかな」自然が「寛大な」人々を生み出した「やさしい」気風の土地となりました。

その象徴が「ヨバレ祭り」。お祭りの日に各家庭が親類縁者・友人知己にとどまらず老若男女・ヨソ者・旅人・通りがかりの人までごちそうして歓待する風習が今でも残っています」というお話でした。

能登の人は幸せです。見世物ではなく自分たちだけの本当のお祭りがあります。たとえ小さくても楽しさを競うような多彩な祭り。おもてなしの心で各々が自宅でパーティーできる住・食・人の豊かさ。こんなところは日本でもそうはありませんよ。



## 第7回 『お祭り半島』



### 写真・文 山崎昭宏

【PROFILE】 Yamazaki Akihiro  
昭和42年埼玉県生まれ。平成21年能登町笹川に移住。海外に憧れ、旅行のみならず仕事でも関わった。貿易は異文化コミュニケーションであり、仲立ちが成功すればモノが動く与会得した。今は都会と農村の価値の仲立ちをしている。同じことをしていると気づいた。ブログ：ゆらりぶらり <http://blog.livedoor.jp/yurariburari/>



「広報のと」7月号の印刷費は一部当たり26円です。